

稻垣 この年齢になつて初めて
気づいたんですが、地獄って実
は自分の中にあるものなんじや
ないかと。例えば以前、私は朝日

テレビ・ラジオ・執筆などでご活躍の稻垣えみ子さんの対談を
2回にわたり掲載します。福島県の原発事故をきっかけに、節電
生活。50歳で朝日新聞社を退社。ひと月の電気代が150円。そ
んな稻垣さんの魅力に触れてみたいと思います。

貴重な時間を作つていただきあり
がとうございます。はじめに、稻垣

すがた

新聞社といういい会社の社員で
した。入社した当初は時期的に

テーション」で、金正男氏の殺害の報
道の時、「正恩氏は深い地獄の中に
いる」と言つていたことです。一般的
には、恐怖政治の中の国民が地獄と
考えますが、地獄をどう捉えている
のでしょうか。

大寄あよひ寄

谷派
大教務所
宗小松

〒923-0904
小松市小馬出町26
Tel 0761-22-0555
発行者 長澤 秀豊

編集 小松教区教化委員会

でも実際はそうはいか
なかつた。最初は意識し
てなかつたんですが、結
局、いいとか悪いとかい
うのは、自分の欲の世界
のことだつたんですよ
ね。

たくさんお金を稼い
で、洋服とか家とか車とか
も、人と比べてよりいい物
を、いい暮らしをと思つて一
生懸命働いてきたんですが、
ふと気づけばキリがない。上に
は上がりでどこまで行つても満
たされない。同時に、歳を重ねて

今の暮らしを失うのが怖いから
会社にしがみつかざるを得ない。
いずれ自分もそうなるんだと思
うと、先行きが暗くなってきた
んです。そういうどうしようも
ない不安を感じ始めて、それで
は、不安のその大元はどこにあ
るのかを考えた時に、それは自
分の中にあるものなんじやない
かと。自分で自分の欲を制御で
きない。その自分そのものを変
えないとな安泰だと。ステータスも金銭
的なことも含めて、私の人生は

くると、人生に限りがあること
も気づいてきたわけです。
先輩社員を見ていて、50歳を
過ぎるとだんだん会社でも居場
所がなくなつてくる。それでも

稻垣 この年齢になつて初めて
気づいたんですが、地獄って実
は自分の中にあるものなんじや
ないかと。例えば以前、私は朝日

もいい時代でしたから、就職が
決まつた時は、これで私の人生
は安泰だと。ステータスも金銭
的なことも含めて、私の人生は
これでアガリだと思つたんです。

稻垣 この年齢になつて初めて
気づいたんですが、地獄って実
は自分の中にあるものなんじや
ないかと。例えば以前、私は朝日

もいい時代でしたから、就職が
決まつた時は、これで私の人生
は安泰だと。ステータスも金銭
的なことも含めて、私の人生は
これでアガリだと思つたんです。

くると、人生に限りがあること
も気づいてきたわけです。
先輩社員を見ていて、50歳を
過ぎるとだんだん会社でも居場
所がなくなつてくる。それでも



なかなかそこにたどり着けないと
思いますが。

稻垣 そうなんですか？

少なくとも自分の周りには気づいている人はゼロに近いと思います（笑）。

稻垣 もしかすると自営で仕事をしている人はなかなかきっかけが多いかもしれません。組織に振り回されるサラリーマンだと、矛盾が多い分、逆に気づきやすいのかも

稻垣さんの著書『魂の退社』にも書かれていますけど、充分な生活をしていても、欲にキリがないということは多くの人はうすうす気づいていると思うんです。

稻垣 そう思います。なんとなく気づいてはいるんです。でもなかなか抜けられないんですよね。

そのことを言つてくれる人がいないから、引きずられてしまうんです。

稻垣さんは、ガツンとはつきり言つて

くださった。「」に至る、なにか具体的なことがあればと思ってお聞きしてみました。

稻垣 確かに私も、何か変だぞ、やばいぞ、とうすうすは気づいていたのに、ずっと見て見ぬふりをして生きてきた気がします。それが変わったのは、このことは『魂の退社』で詳しく書いたんですが、40歳の誕生日を迎えた会社の先輩に「いよいよ人生の折り返しですね」と、ちょっと毒のある冗談を言つたことが大きかったんですね。というのも、その時私も38歳だったので、そういうえば私もまもなく折り返しだと気づいた。

それまでなんとなく、人生はずつと上り坂であるかのように思っていたんですが、待てよ、そんなはずはないじゃないかと。折り返し地点を過ぎれば、あとは下り坂。つまり、自分の健康も収入も、いずれは減っていくんだということを初めて自覚したんです。それなのに、これまでのようになにかがすごく楽しかった

『寂しい生活』という本に詳しく書いたんですが、最初は原発事故への危機感から「やらねばならぬ」と思つて始めたことが、実際にいろんな家電製品を勇気を出して手放してみると、これがすごく楽しかったというか、開放されたというか。それで、これまで自分がいかに「失うこと」をただやみくもに恐れていたかがよくわかつた。

きっかけは、そのふたつですね。いわば偶然です。お坊さんのように何か悟りを求めて努力したわけじゃありません。

稻垣 そうなんですか（笑）

坊さんの方がむしろ俗化していますよ。



稻垣 でもそれも、私が偉いからずつと頑張って節電を続けているということがあります。そういう「我慢」とか「頑張る」ということは続かなかつたと思います。ただ私の場合は電気代を半減するという目標を立てたことが大きかった。それがなかなかできなくて、意地になつていろいろと考えたり工夫したり

教区教化テーマ 「共に語り合おう、親鸞さまの教え」

しているうちに、なんだかゲーム的な感じになってきて、そのうち、節電イコール我慢というイメージがすこり変わつていった。人間つて結局、節工夫したり、自分の頭や体を使って何かすることが好きなんですよね。実際にやってみるとそっちのほうがずっと面白い。それでどんどんエスカレートして、今では家電製品は灯り、ラジオ、パソコン、携帯電話の4つだけになりました。

でも、そこがなかなか現代人には理解しにくいんですね。よく「まだやつてんの」とか「今までやるの」とか言われます。それほど、便利といふのは現代人にとって絶対善なのかもしれません。私もかつてはずつとそう思つてきた。だからそれを失うことなどを怖がつてきました。でも実際そこから脱出してみて、それは本当は思い込みでしかなかつたことに気づいたんです。

先ほど金正恩氏のことが出まして、たしかに正恩氏の人生を地獄だと思ひます。なぜなら、彼はこれ以上ないほどのお金と地位を持つていて、それは一般的に見れば幸せの頂点と言つていいい状態なのに、實際

は、自分の兄を何とかして暗殺しないと気持ちが全く休まらないと云ふ精神状態なわけです。これが工夫したり、自分の頭や体を使って何かすることが好きなんですよね。実際にやってみるとそっちのほうがずっと面白い。それでどんどんエスカレートして、今では家電製品は灯り、ラジオ、パソコン、携帯電話の4つだけになりました。

は、自分の兄を何とかして暗殺しないと気持ちが全く休まらないと云ふ精神状態なわけです。これが工夫したり、自分の頭や体を使って何かすることが好きなんですよね。実際にやってみるとそっちのほうがずっと面白い。それでどんどんエスカレートして、今では家電製品は灯り、ラジオ、パソコン、携帯電話の4つだけになりました。

生きている多くの人が、まさに地獄を生きているのかもしれないと思うんです。

生きている人が、まさに地獄を生きているのかもしれないと思うんです。

稻垣 無間地獄 というのは、現代をあらわすのにいちばん的確な用語のような気がします。私もずっとそういう世界を生きてきました。例え物を買つても買つても、また欲が出てきて、終わりがないというのはまさに無間地獄なんだなと思います。

【次号へつづく】

※無間地獄 八大熱地獄の中のひとつ。一番大きい苦しみを受ける。苦しみが絶え間ないことから名付けられた。阿鼻地獄のこと。

稻垣えみ子 いながきえみこ
1965年愛知県生まれ。一橋大学社会学部卒。朝日新聞社入社。大阪社会部、週刊朝日編集部などを経て論説委員、編集委員をつとめる。50歳で退社。著書に『アフロでおなじみの『魂の退社』の中でも、無間地獄(※)という言葉も使われまれていて、『魂の退社』の中でも、無間地獄(※)という言葉も使われました。暖房のない部屋でお風呂に入つて、冷めたお湯を何度も沸かし直さないといけない。なかなか湯船から出られない状況を指していくんですけど、現代人を表しているのかな、と思いました。

真宗 Q & A

浄土真宗とは？

Q 今日「浄土真宗」という言葉は、親鸞聖人の師の法然上人(おもむき)が浄土宗を開き、親鸞聖人が浄土真宗を開いた、ということでしょうか？

A 今日は「浄土真宗」という言葉は、親鸞聖人を開祖とする一宗派という意味で使われています。けれども聖人が浄土真宗と言ふ場合、それは宗派名ではなくて「浄土こそが眞実の依り処です」という意味です。

法然上人についての御和讃に、「智慧光のちからより／本師源空(しょううにん)あらはれて／願のべたまふ」とあります。ですから聖人は、法然上人こそが浄土真宗を明らかにした方でした。その法源空(しょううにん)あらはれて／

あるとしておられたはずです。歴史的経緯の中で「聖人一流の御勸化のおもむき(御文)」が淨土真宗と呼ばれるようになつたといふことはありますけれど、聖人ご自身は一宗一派の呼び名として浄土真宗といふ言葉を使つたのではありません。淨土真宗こそが私たちの生涯を支えることを宣言されたのです。

小松教区教学研究所

【教区教化事業のご案内】

◇十二日講
日時 每月12日午前9時30分

会場 常磐会館（小松教務所）

講師【7月】大谷 文邦 氏

【8月】平野 喜之 氏

全戦争犠牲者追弔法会兼修
【9月】佐々木 五六 氏

◇日曜講座
日時 日曜日午前9時30分

会場 常磐会館（小松教務所）

【7月】1日・8日・29日

◇教区帰敬式（おかみそり）
日時 7月22日9時

会場 常磐会館（小松教務所）

◇暁天講座◇朝食をご用意します
日時 8月1日～5日

午前5時45分～7時30分

会場 常磐会館（小松教務所）

4日 布橋町会館

5日 橋構造改善センター
講師 1日 高柳 正裕 氏

2日 マイケル・コンウェイ 氏

3日 白木澤 琴 氏

4日 竹原 了珠 氏

5日 藤原 正寿 氏

◇詳細につきましては小松教務所
までお問い合わせください

うららのお寺

願成寺 がんじょうじ

（小松市島町）

願成寺は、もともと泉州（大阪）の地にあり真言宗の寺院であった。天正年間（1572～92）

の戦乱で伽藍を失う。その住職教祐は、文禄年間（1592～96）、本願寺十二世教如上人に出

会い淨土真宗に改宗する。

教祐の死後、教如上人の命により後継者となつた友鎮が本堂を再興し、上人より木仏・諸尊を賜わり、寺号を引き継ぐ。その後、泉州より京都へ移転するが、元治元年（1864）の禁門の変で

堂宇を焼失する。住職が死亡し、繼嗣もなく、坊守と門信徒は移転再興を願つた。

明治二十九年、縁あつて、現在の地にあつた説教場が、移転先となり願成寺を受け継いだ。そして、説教場の留守居を務めていた森本誓順が十一代住職に就任した。

十五代

目となる
住職は、

「町のお寺」

として、毎

月二十八



日の『親鸞
聖人御命
日の集い』を大切にしています。
これまで和讃の学習を行ない、
三首～五首ずつ取り上げて読み
味わつてきました。みなさんが

月一回お寺に足を運んでくれることを喜んでいます」と話された。お参りの後は、カフェタイム。
参詣者がひざを交えてざつくばらんに語り合う場としている。

坊守さんは、「ご本尊が、幕末



の兵火をくぐりぬけてここに届けられたと思うと、このお寺をなんとか守つていかなくてはという気持ちになりますね」と語ってくれた。

編集後記～パソコンが周りの人より少し得意だ。それだけの理由で広報の仲間に入れていただいている。日々勉強である。わかりやすくをモットーに、広報メンバーの努力は日々続いている。今年も小松教区は世界で唯一無二の郡中御影報恩講をお迎えする。教区HP・SNSでも発信します！ぜひご覧ください。日野

郡中御影報恩講

～なすびのほんこさん～

7月23日（月）8時～勧帰寺出発 御影道中
9時～於本蓮寺 報恩講勤修

うえば けんゆう

講師 上場 顯雄 氏

「教如上人と郡中御影一秀吉・家康一」